

第1学年1組 国語科学習指導案

平成27年10月21日(水) 第5校時

場所：1年1組教室

指導者：あさぎり町立免田小学校 教諭 藤田沙織

1 単元名 1年 こえにだして よもう 「くじらぐも」 (光村図書)

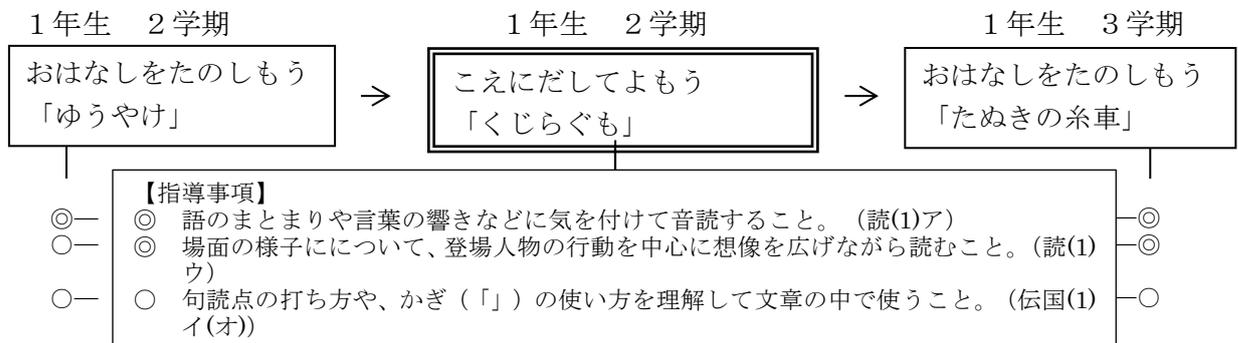
2 単元について

- (1) 本単元は、学習指導要領「C読むこと」領域における、(1)ア「語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること」と、(1)ウ「場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと」を受けて設定されたものである。

本教材は、体育の授業時間という1年生にとって身近な現実の世界に、突如くじらぐもが登場する場面から始まっている。そして、風によって空想の世界に導かれ、くじらぐもと大空を旅した後、また現実の時間と空間に戻るという設定になっている。自分たちと同じ1年生が活躍する内容で、短く分かりやすい会話文で構成されているため、楽しんで音読をしたり、想像を広げて読んだりすることで、物語の面白さを味わうことができる教材である。

児童は、繰り返しのある会話文や登場人物の行動に着目して音読することで、声に出して読むことの楽しさを味わうことができるだろう。また、音読の仕方を考えたり、挿絵をもとにして登場人物の気持ちを考えたりする活動を効果的に取り入れることで、児童は物語の世界をより豊かに想像して読むことができると考える。よって、本教材は、音読という言語活動を用いて読みを深めていくのに適した教材である。

- (2) 単元の系統は次のとおりである。



- (3) 児童の実態は次のとおりである。(男子19人、女子12人、計31人)

ア 児童の意識調査の結果

調査項目	○(好き、できる、ためになる)	どちらかといえば○	どちらかといえば×	×(きらい、できない、ためにならない)
国語が好きですか。	14	14	1	2
国語の授業で、自分の考えをもったり書いたりすることはできていますか。	14	12	4	1
国語の授業で、発表することはできていますか。	18	9	4	0
国語の授業で、友だちの考えを聞くことは、自分のためになっていますか。	16	7	6	2

【分析と考察】

国語の授業を好きな児童が大半である。ただ、自分の考えをもったり発表したりするのができていないと思う児童は、授業中も支援を要する児童である。学習活動での達成感や成功体験が必要であると考え。また、友だちの考えを聞くことが自分のためになっていると思わない児童が8人おり、様々な考えを聞いて、納得したり、考えが変わったりするという経験が不足しているためだと考える。考えを交流させ、児童同士の意見をつなぐ活動を工夫していく必要がある。

イ 音読に関するアンケートと個別の読みの実態

調査項目	○(好き、できる、ためになる)	どちらかといえば○	どちらかといえば×	×(きらい、できない、ためにならない)
音読することは好きですか。	14	9	6	2
文を読んで、音読記号を付けることはできますか。	10	13	4	4
友だちの音読の良いところを見つけたり、教えてあげたりすることはできますか。	9	11	9	2
説明文「うみのかくれんぼ」の音読 (個別の読みの実態)	<ul style="list-style-type: none"> ・語のまとまりに気を付けてすらすら読める：22人 ・語のまとまりを区切りながら、ゆっくり読める：5人 ・たどり読みをする(一つの文としてすらすら読むことは難しい)：4人 			

【分析と考察】

音読に苦手意識をもっている児童が、学級の4分の1となっている。これまで個人で読む経験が多く、音読の上達にも個人差が大きく表れていた。音読が苦手というだけでなく、音読のよさを実感できていないことが考えられる。また、「友だちの音読のよさ」を見つけるのが苦手な児童が11人いる。関心をもって友だちの音読を聞こうとする意識が低いことが考えられるため、音読のよさを見つける際の着目点などを、わかりやすく示していく必要がある。

このような児童の苦手意識やつまづきを踏まえ、音読に対する意欲を高めるような活動を工夫し、互いの音読のよさに気付くことで児童の読みの力が深まるような授業を展開していきたい。

(4) 指導に当たっては、次のことに留意する。

子どもの知的好奇心を喚起し、学習への興味・関心を高める工夫

- 自分だけの「くじらぐもえほん」作りを言語活動に位置付け、自分だけの絵本を作りたいという意欲をもてるようにする。
- 学習のまとめとして、「音読発表会」を開き、学習で積み上げた音読の成果を披露する場を設定する。
- くじらぐもの掲示をしたり、中川李枝子関連図書を設置したりして、本の世界に親しむ環境を充実させる。

「分かった」「できた」と実感できるような授業づくり

- 電子黒板や拡大掲示を活用し、サイドラインを引いたり、本文への書き込みなどをしたりする活動は全体で確認していくようにする。
- 音読を通して登場人物の気持ちを想像できるようにするために、役割を決めた「なりきり音読」に取り組み、読み方の工夫を全体で確かめる。
- 学習の達成感や達成感を味わえるように、学習の終わりに振り返りをし、自己評価を行う。

子どもに基礎的・基本的事項を確実に定着させる工夫

- 物語の展開の順序を意識させるため、振り返りの場面には挿絵を活用する。
- 地の文と会話文を区別して読み、会話の主を明らかにするために、会話文には登場人物ごとに色分けしたサイドラインを引かせる。
- 会話文の読み方に着目させることで、気持ちをこめて読む基本的な音読の仕方を身に付けさせる。
- 一人で確実に音読ができるように、授業中や家庭学習で音読の時間を設ける。

思考力・判断力・表現力等を高める工夫

- 学習を振り返る際の参考となるように、前時までの学習内容を掲示する。
- 挿絵の場面に登場する子どもたちにぴったりの言葉を考える活動を通して、場面の様子や登場人物の行動をもとに想像を広げて考えることができるようにする。
- よりよい音読の仕方について実感を伴って考えられるよう、動作化や役割音読を取り入れる。
- 「くじらぐもえほん」の音読発表会を行うことで、互いの読みの相違点に気付き、想像して読み深めることの楽しさを味わうことができるようにする。

【人権が尊重される授業づくりの視点】

- 自分の考えが、友だちの考えを聞くことで変容したり、自分と違う考えを認め合ったりすることで学び合う楽しさや面白さを感じられるようにする。

【道徳教育との関連】〔価値項目〕信頼、友情

- 互いを認め合い、学習活動や生活の様々な場面を通して理解し合い、協力し、助け合おうとする態度を育む。(2-(3))

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度		読む能力	言語についての知識・理解・技能
単元を貫く言語活動	子どもたちの	きもちをつたえる、じぶんだけの「くじらぐもえほん」をつくらう	
①くじらぐもの世界について想像を広げながら、物語を楽しんで読もうとしている。		①語や文としてのまとまりや内容、呼びかける声の大きさなどを考えて、音読している。(ア) ②場面の様子や登場人物の気持ちについて、登場人物の言動を中心に想像を広げながら読んでいる。(ウ)	①会話は「」を使って書くことを知り、句読点に気を付けて文章を書いている。(イ(オ))

4 単元の指導計画及び評価基準 (9時間取扱い…本時5/9)

次	時	学習活動	指導上の留意事項	関	読	言	評価基準及び評価方法
一次	1	○「くじらぐも」の範読を聞き、あらすじをとらえる。 ○自分だけの「くじらぐもえほん」を作ることを確認する。	・「くじらぐもえほん」について伝え、学習への見通しと意欲をもたせる。 ・好きな場面やおもしろいところについては、場面の様子や登場人物の行動に着目させて交流し合うようにする。	◎			<u>関心・意欲・態度①(観察・ノート)</u> ○想像を広げながら、物語を楽しんで読もうとしている。
	2	○好きな場面やおもしろいところを伝え合う。 ○会話文に、登場人物ごとに色分けしたサイドラインを引いて、音読する。	・場面の様子は、子ども→赤、くじらぐも→青のサイドラインを引かせる。		○		<u>読む能力①(音読)</u> ○語や文のまとまりに気を付けて音読している。
二次	3	○学校に現れたくじらぐもの様子を読み取り、くじらぐもに対する子どもたちの気持ちを想像して読む。	・子どもたちとくじらぐもの様子を対比させ、楽しく音読できるようにする。 ・くじらぐもに話したいこと、聞きたいことを交流させ、想像を広げて考えさせるようにする。		◎	○	<u>読む能力②(えほん、音読)</u> ○くじらぐもの様子をもとに、子どもたちの気持ちを想像して読んでいる。
	4	○役に分かれて音読に取り組み、くじらぐもと子どもたちのやりとりを通して、登場人物の気持ちを想像して読む。	・くじらぐもと子どもたちの位置関係をおさえ、会話文の読み方に着目させて音読に取り組む。 ・役割音読を発表し、音読のよさを出し合う中で、登場人物の気持ちを考えるようにする。		◎	○	<u>読む能力②(えほん、音読)</u> ○場面の様子が分かるように音読し、くじらぐもに対する子どもたちの気持ちを想像して読んでいる。
	5 本時	○役に分かれて音読をし、会話文の読み方の工夫を考慮することで、子どもたちの気持ちを想像して読み取る。	・子どもたちの会話文で1番強く読むところを考えさせ、読み方から伝わる子どもたちの気持ちを想像させる。 ・子どもたちの気持ちを想像しやすい構造的な板書を工夫する。		◎	○	<u>読む能力②(えほん、音読)</u> ○音読の工夫について考え、子どもたちの気持ちについて想像を広げながら読んでいる。
	6	○くじらぐもと空を旅する子どもたちの様子を想像して読む。	・くじらぐものどこに乗りたいかを考えさせ、見えるものと自分の位置関係をイメージさせる。 ・「何が見えたか」「何を話したか」等、具体的な視点を与えて想像を広げることができるようにする。		◎	○	<u>読む能力②(えほん)</u> ○くじらぐもに乗って旅をする子どもたちの会話や気持ちを想像して書くことができる。
	7	○役に分かれて音読をし、場面の様子が伝わるように読む。 ○別れの場面での子どもたちの気持ちを想像して読み取る。	・位置関係を確認させ、場面の様子が読み方に表れるようにする。 ・これまでの場面を振り返り、くじらぐもに対する子どもたちの思いを振り返らせる。		◎	○	<u>読む能力②(えほん、音読)</u> ○子どもたちの会話文の後に続く言葉を考え、想像を広げて読んでいる。
三次	8	○最も音読で発表したい場面を選び、班で練習する。	・音読する場面を、1～5場面の中から一つ班を選び、練習する。	○	◎		<u>関心・意欲・態度①(観察・ノート)</u> ○自分で考えた会話文を取り入れ、物語を楽しんで読んでいる。
	9	○1年1組の「くじらぐもえほん」の音読発表会を行い、感想を交流する。	・自分で考えた吹き出しを音読の中につけ加えて練習する。 ・互いの班のよい点に着目して発表を聞くようにする。				<u>読む能力①(えほん、音読)</u> ○場面の様子が表れるように音読している。

5 本時の学習（5／9時間）

(1) 目標 登場人物になりきって音読することを通して、場面の様子を豊かに想像して読むことができる。（読むことウ）

(2) 展開

過程	時間	学習活動	主な発問・指示	指導上の留意点	備考
つかむ	5	1 本時の場面を音読し、学習課題をつかむ。	T：3の場面を音読しましょう。 T：子どもたちがいる場所はどこ？ C：運動場→くじらぐもの上 T：この場面をもっとくわしく読んでいきましょう。	・音読をした後に、本時の場面設定を全体で確認する。 ・なりきり音読をするよさを確認する。→気持ちが伝わる	教科書挿絵くじらぐもえほん
「なりきりおんどく」をして、子どもたちのきもちを かんがえよう。					
かんがえる	10	2 なりきり音読をする。	T：なりきり音読で大切なことは何でしょう。 C：なりきって読む動きをつけて読む T：一人で考えて練習しましょう。 C：ジャンプして読んでみよう。 T：班でなりきり音読しましょう。 C：だんだん強く読もう。 C：手を動かしてみよう。	徹底指導 （ポイント） ・なりきり音読のポイントを確認し読み方に対する意識を高める。 ・読み手を「子ども」「くじらぐも」「地の文」に分け、一人一人の役割を明確にする。 ・なりきり音読の練習を、個人→班へと段階的に設定し、自分なりの読みを音読に活かせるようにする。	役割カード
ふかめる	15	3 なりきり音読の工夫について話し合う。 (1)考えと理由を交流する。 (2)一斉音読で確かめる。（なりきり音読）	◎「天までとどけ、1、2、3。」について T：一番強く読むところは何回目でしょうか。 T：それはなぜですか。 C：3回目。強く読むと飛び乗りたい気持ちがわかるから。 C：くじらぐもに応援されて、もっとならばりたいと思ったから。 C：だんだん高く飛べるようになってうれしかったから。 T：音読をして、読み方の工夫を確認しましょう。	能動型学習 （ポイント） ・音読の工夫を見つけるために、模範となる班の発表を聞かせる。 ・一番強く読む文に黒丸を記入し、自分の考えを明確にさせる。 ・強く読む理由を考えさせることで登場人物の気持ちについて想像を広げさせる。 ・跳んだ高さの違いに着目させたり実際に動作化をさせたりして、子どもたちの気持ちの変化したかどうか、考えるきっかけにする。	
まとめる	12	4 風に吹きとばされた子どもたちになりきって言葉を考え、交流する。 【言語活動】（設定の意図）子どもたちの気持ちを書き込む「くじらぐもえほん」を作成することを通して、場面の様子を豊かに想像して読み取る能力を身に付けさせる。	◎子どもたちが風に吹きとばされた場面 T：吹きとばされた子どもたちになりきって言葉を考えましょう。 C：やったー。やっと飛べた C：くじらぐもがたくさん応援してくれたからだ。 C：みんなで何回もがんばってよかった。 T：自分の考えを発表しましょう。 C：私の考えと似ているな。 C：子どもたちの気持ちがよく伝わる言葉だな。	◆読む能力②(えほん) 【評B】子どもたちの言葉を想像して書いている。 【評A】なりきり音読で考えたことを踏まえて、子どもたちの言葉を想像して書いている。 (B基準に達していない児童への手立て) ・挿絵の様子や板書をもとにして、気持ちを考えさせる。 ・数人の考えをシートに書かせ黒板に提示し、考えを深めるきっかけとする。 ・似ている考えや、いいなと思う考えについて意見を出し合い、交流をしていく。	ホワイトボードシート
ふりかえる	3	5 学習の振り返りをする。	T：最後にまとめの音読をしましょう。 T：今日の学習でわかったことやできたことは何ですか。 C：3回目の「天までとどけ、1、2、3」が一番強く読みます。 C：子どもたちになりきって、くじらぐも絵本が書けました。	・まとめの音読は全員で行い、本時で考えた登場人物の気持ちが伝わるように音読することを意識させる。 ・本時の振り返りを挙手で確認し、自己評価につなげる。	